

近代の土地制度は1870年代と1930~1940年代とに大きく変化した。1870年代前半には農地売買が自由化され、農地を担保に借り入れた資金を返せない際に、土地所有権を移転することも容易になった。貸し主にとっては安全に貸せるようになり、借り主にとっては農地を担保として資金を借り入れやすくなった。一方、1930年代後半から1940年代前半には、農地改革に先立ち、地主の権利への規制が強められた。これらに関する以下の資料と図とを読んで、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

土地改正

同じ内容

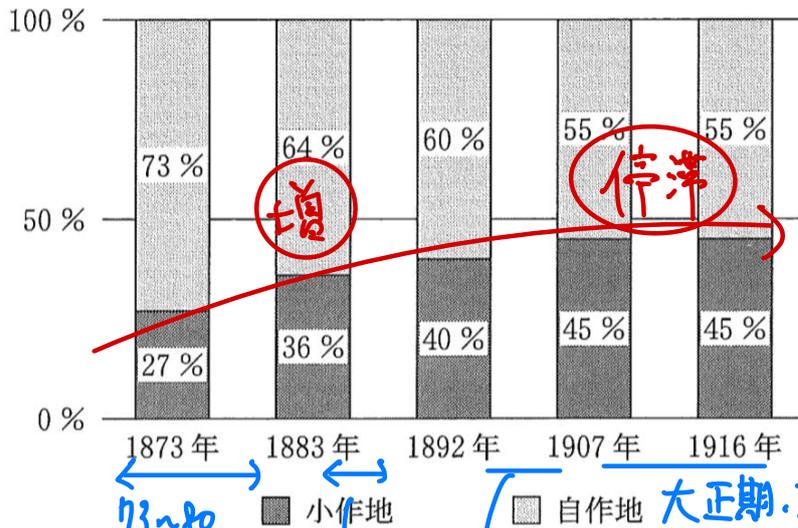
貸(借)しやす → 小作人増

図A

資料1 1873年1月地所賃入書入規則(大意)

- 所有地を担保として金銭を借り入れ、かつ、その所有地を引き続き耕作し、その収益から借入金の利息を貸し主に支払うことを書入(かきいれ)という。
- 書入した土地は借り主が耕作しているので、その土地の地租および地方税は借り主が納付する。
- 借入金を返済せずに、書入した土地を借り主から貸し主に引き渡すときには、貸し主が新しい地券の発行を申請し、以後、地租と地方税を納付する。

図1 小作地と自作地の比率



教科書・資料集には小作農についての記載は

大正期・大戦景気

(古島敏雄編『日本地主制史研究』)

73~80 松方正義

1st 産業革命

2nd 産業革命

資料2 1938年4月農地調整法(大意)

地主は、事情もなく小作料を滞納するなど小作農側に信義に反する行為がない限り、小作契約を解約したり小作契約の更新を拒否したりすることはできない。

小作農の保護

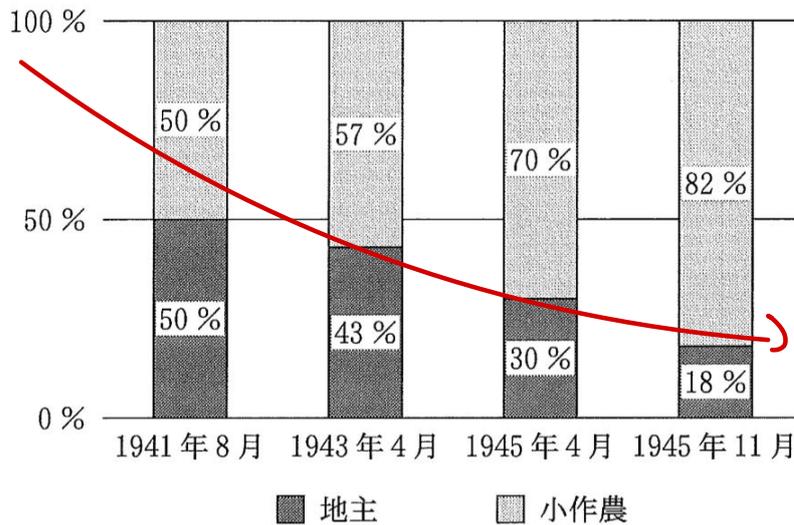
資料3 1941年11月農林次官通牒(大意)

米の政府買上(かいあげ)価格の引き上げや、自作農と小作農への生産奨励金の交付により、米の生産が有利になるため、農業経験の乏しい地主が小作契約を解約して自作しようとするなどの恐れもある。そのような行為は食料増産のためにはならず、また農地調整法に照らしても認められないので、特に適切な措置を講じる。

食糧増産が  
大事  
なぜ?  
→戦争

→小作農を保護

図2 地主と小作農の間の収益配分の変化(米の政府買上価格引き上げと生産奨励金交付の効果, 概算)



小作農が  
有利に

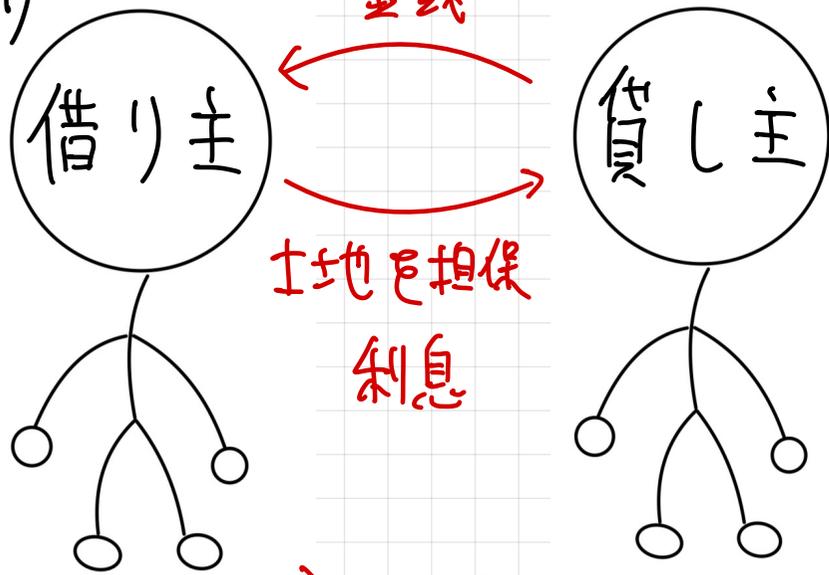
(『岩波講座 日本経済の歴史 5』)

### 設問

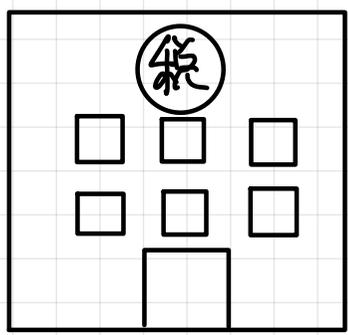
A 小作地の比率は図1のように変化した。その要因を3行以内で述べよ。

B 図2に見られる収益配分の変化はどのような政策的意図によってもたらされたか。3行以内で述べよ。

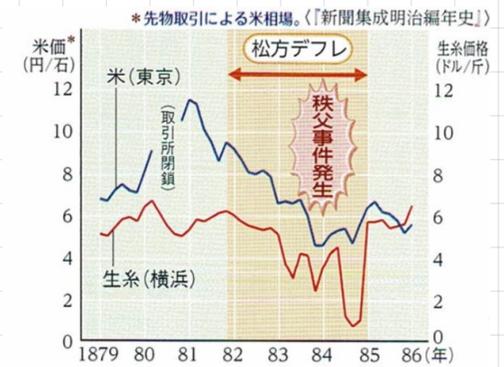
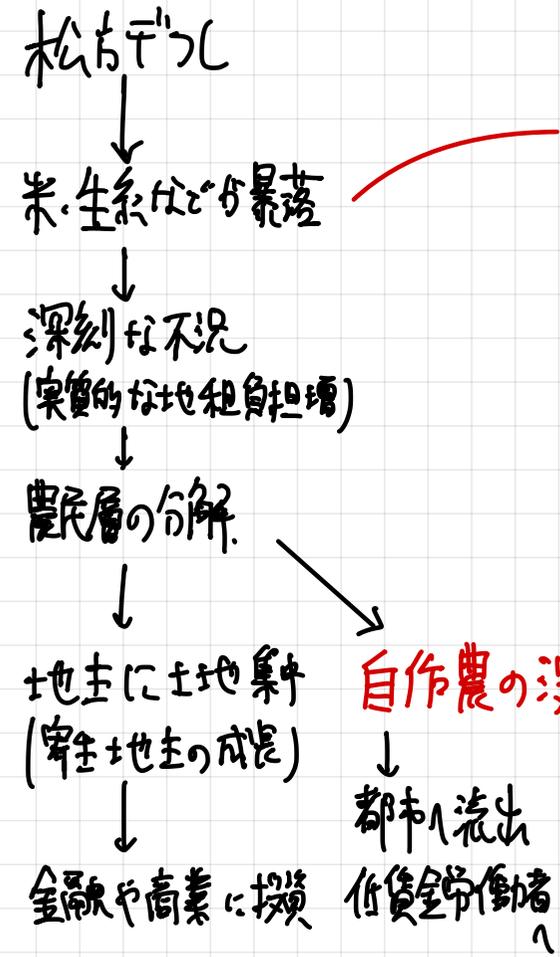
(資料1)



耕作す  
地帯



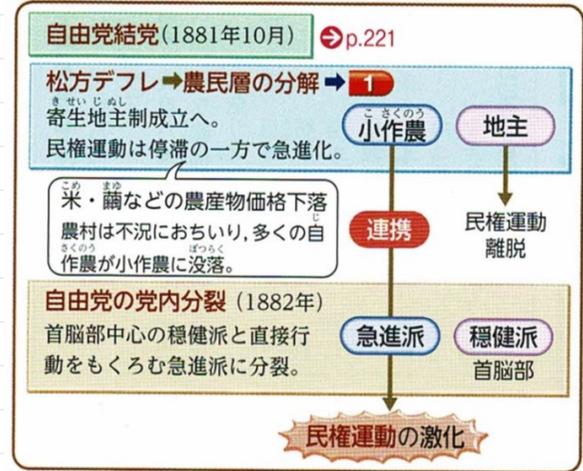
借入金を返済せずに、書入した土地を借り主から貸し主に引き渡すときには、貸し主が新しい地券の発行を申請し、以後、地租と地方税を納付する。



④米・生糸価格の変動 デフレ政策による物価下落は米価や生糸価格で著しく、農家は大打撃を受けた。とくに養蚕農家には、高利貸しに借金して土地を手放し、困窮没落する者が激増。この状況の中で激化事件が多発した(→2)。



## 2 農民民権のおこり

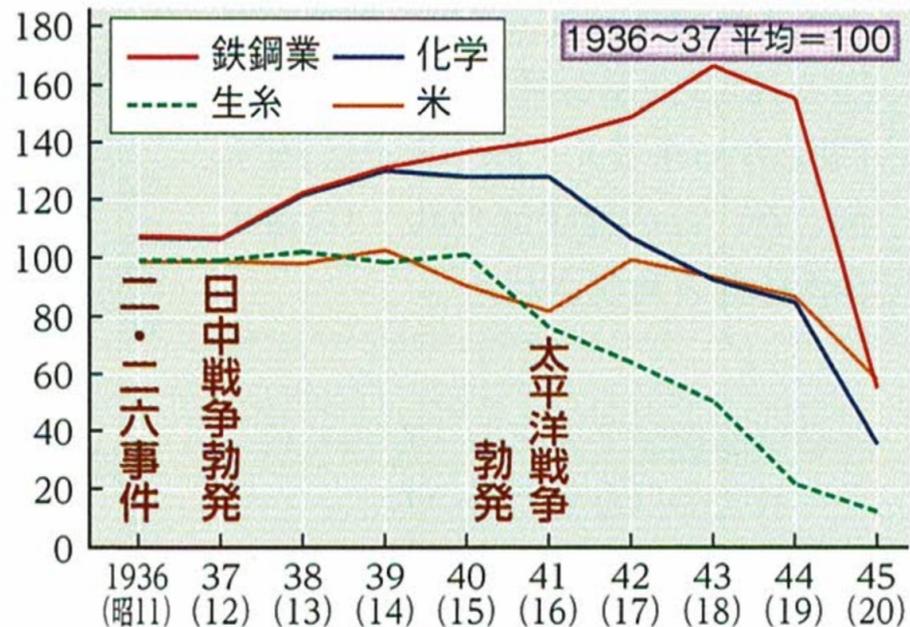


民権運動激化

⑥自由党と農民民権

## B 戦時生産の推移

〔明治以降本邦経済主要統計〕



帝国書院 図説日本史通覧

## 4 米の供出と配給

▶ 米穀供出強制措置を報じる新聞記事(右、『朝日新聞』1940年5月11日)と米穀通帳(左) 農民の出征による労働力不足や肥料不足で、米の生産力が低下したため、政府は各農家へ強制的な供出を実施。都市では米穀通帳で配給された。



山川出版社 詳説日本史図録

農村では、1940年から政府による米の強制的買上げ制度(供出制)が実施された。

政府は生産奨励のために小作料の制限や生産者米価の優遇などの措置をとり、地主の取り分を縮小させたが、それでも労働力や生産資材の不足のために、農業生産は1940年以降、低下しはじめ、食糧難が深刻になっていった。

軍需工場を建設するため、農地が工業用地などに転用されることも多くみられた。

資料と一致

山川出版社 詳説日本史探究

## 5 代用食と代用品一物不足の深刻化



▶ 「東京都壁回覧板」の「何がなんでもカボチャを作れ」 食料不足が深刻化すると、家の庭を家庭菜園にした。線路の脇や空き地でもカボチャ作りなどが奨励された。

▶ 「おいもは大切な主食物」(『朝日新聞』1943年7月17日) 米の生産が低下すると、米飯に「さつまいも」を混ぜたごはんを食べることが奨励された。米がなくなると、「さつまいも」がまさに主食となった。



山川出版社 詳説日本史図録